

2026

5.20 (水) 12:10  
12:50

12:10-12:15

◆発表者紹介

12:15-12:40

◆プレゼン

12:40-12:50

◆質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_nk6YIPqKSIWFlucrYLXsmw](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_nk6YIPqKSIWFlucrYLXsmw)

【技術支援】九州大学 Q-AOS

# 現代の J-POP と、大正期における 西洋音楽理論の受容をつなぐ？



Key Words

音楽

日本と西洋

和音

文化の相互作用

西田 紘子 教授

九州大学大学院 芸術工学研究院 音響設計部門



千葉県生まれ。2002年に東京藝術大学にてアカンサス音楽賞を受賞し、2009年に博士号を取得。その後、ウィーン音楽演劇大学でも研鑽を積みました。専門は音楽理論、西洋音楽史、ポピュラー音楽研究や現代の音楽マネジメントを含む幅広い音楽文化研究です。主な著書に『ハインリヒ・シェンカーの音楽思想—楽曲分析を超えて』（2018年）、共編著に『近代日本と西洋音楽理論—グローバルな理論史に向けて』（2025年）があります。また、共著に“Agency in Ensemble Interaction and Rehearsal Communication”（オックスフォード大学出版局、2021年）や“Reception of Hugo Riemann's Theory of Functional Harmony in Japan”（2025年）があるほか、“How do Music Streaming Services Change Japanese Popular Music?”（2023年）といった発表を通じて、現代における音楽体験の研究を学際的に進めています。

現在、多くの日本人がストリーミング・サービスを利用してポピュラー音楽を聴くようになりました。このサービスはJ-POPをどのように変えたのでしょうか。本セミナーでは、音楽の特徴をとらえる「音楽理論」という研究分野、とくにヒットソングのコード進行（和音のつながり）を理解するための和声（ハーモニー）理論に注目します。この理論は、昔から日本に存在したわけではなく、明治・大正期以降、日本人が西洋からとり入れることで、日本でも知られるようになりました。当時の日本人が西洋の音楽理論とどのように格闘したのか、また日本の音楽はヨーロッパの人たちにどのように受け入れられたのか——その相互作用の一部をご紹介します。